

## 学芸員の研究発表など

**実践報告「プラネタリウムで『今この瞬間』の惑星を見る！～大阪市立科学館&姫路市『星の子館』Zoom観望会の実施～」**

石坂 千春、西野 藍子(学芸員)、吉岡 克己(総務企画課長)ほか  
天文教育 第33巻No.1 通巻168号、P37-44 (2021年1月25日)

2020年11月に実施した大阪市立科学館&姫路市「星の子館」のコラボイベントについて報告した。このイベントは科学館のプラネタリウムと星の子館の天文台をオンラインでつなぎ、星の子館の望遠鏡で撮影したリアルタイムの惑星像を、科学館のプラネタリウムドームにインターネットを介して映し出すものであった。実施した3日間とも晴天に恵まれ、当館としては初めての試みであったプラネタリウムでの「今この瞬間」の惑星観察は成功した。当時はドームを外部ネットに接続するのは非常に困難であったが、「今」という時間を多人数で共有することの“力”を実感した。

**研究論文「スペクトルを観察する演示実験」**

長谷川 能三(学芸員)

近畿の物理教育 第27号 2021 日本物理教育学会近畿支部 (2021年3月31日)

大阪市立科学館では、スペクトルを観察するサイエンスショーを1999年から数年ごとに5度、のべ1140回実施し、6万人あまりの方に見ていただいた。このサイエンスショーにおいて、スペクトルの観察に用いる回折格子をどう使うか、その種類や加工方法、またどういった光源を分光して見ていただくかなど、さまざまな工夫をこらしてきた。そこで、これらの工夫点や、「きれい」だけではないサイエンスショーとしてのねらいや方法について論じた。

**講演「旧制姫路高校物理実験機器の価値と魅力」**

吉岡 克己(総務企画課長)

姫路市立姫路高等学校 探究科学コース公開講座 (2021年10月23日)

旧制高等学校の実験機器資料としては全国3番目の規模となる旧制姫路高等学校物理実験機器コレクションと同校の歴史について、地域の歴史資料の観点から解説した。特に、歴史的実験機器の価値と魅力について、演示実験を交えて具体的に示した。また、キャリア教育を意識して、科学館学芸員の業務について、吉岡が行った同コレクションの資料収集、調査研究を例に紹介した。